

平成 29 年度第 1 回古賀市補助金審査委員会 会議録（要点筆記）

【会議の名称】 第 1 回古賀市補助金審査委員会

【日時・場所】 平成 29 年 6 月 2 日（金） 14 時 00 分～17 時 00 分  
市役所第 1 庁舎第 2 委員会室

【主な議題】

1. 開会
2. 会議の公開について
3. 委員長あいさつ
4. (1) 実績報告及び評価
  - ①プレーパークの定期開催から常設に向けたプレーワーカーの育成事業  
(特定非営利活動法人古賀新宮子ども劇場)
  - ②古賀あったかハウス きびの里プロジェクト（古賀市さとうきび研究会）
  - ③古賀市における園芸福祉事業（古賀市緑のまちづくりの会）
  - ④古賀市商工会クリスマス市民祭（古賀市商工会）
  - ⑤古賀市商工会土曜夜市（古賀市商工会）
  - ⑥ボランティアによる飼い主のいない猫の捕獲避妊去勢手術・啓発活動  
(わんにゃんフレンズ古賀)
  - ⑦るるん♪ごみ拾い（特定非営利活動法人エコけん）
5. その他
6. 閉会

【出席委員等の氏名】

委員：宗像優委員長、今村晃章副委員長、小河武文委員、貞光紀美子委員、山崎あづさ委員

事務局：星野孝一財政課長、内裕治財政係長、田中智実業務主査、大川宗春主任主事

関係課：（地域コミュニティ推進課）嶋田東子課長、中野賢一市民活動支援センター係長（青少年育成課）桐原誠課長（福祉課）石井剛主任主事（介護支援課）岩熊和洋業務主査（商工政策課）中村和博商業観光係長、前田典啓業務主査（環境課）長崎英明環境整備係長、吉澤祥子主任主事、矢野貴宏ごみ対策係長、山鹿千鶴業務主査

【庶務担当部署名】

総務部 財政課 財政係

【委員に配布した資料の名称】

資料番号	名 称
1	実績報告書類及び実績評価書<6月2日実施分>
2	古賀市公募型補助金実績評価票
3	平成29年度スケジュール（予定）
参考	公募型補助金採択事業一覧

【会議の内容】

○会議の公開について

合議制の審査となるので、古賀市情報公開条例第7条第4号の公にすることにより、率直な意見の交換もしくは意思決定の中立性が不当に損なわれるおそれがあるものと判断したことにより、非公開とする。

○実績報告及び評価

平成28年度実施の15事業のうち6事業の評価を行う。

①事 業 名：プレーパークの定期開催から常設に向けたプレーワーカーの育成事業 実施団体名：特定非営利活動法人古賀新宮子ども劇場 補助実績額：339,000円（補助申請額：406,000円）
--

<質疑応答>

（委員） 研修を複数回開催しているが、それぞれの研修の趣旨や概要はどのようなものか。

→（青少年育成課） 団体に確認し、詳細は後日報告する。

（委員） プレーワーカーの延べ人数は記載されているが、実数は把握しているのか。また、成果として何人のプレーワーカーが育成できたのか。

→（青少年育成課） 団体に確認し、詳細は後日報告する。

（委員） 参加者数の推移は過年度実績から分かるが、新規参加や継続参加の内訳は把握しているか。

→（青少年育成課） 団体に確認し、詳細は後日報告する。

（委員） 前年度の審査委員会の評価の中で、参加料をとったほうがいいのかという意見や、事業の継続性を考慮して、受益者負担について考えていくべきという意見を付していたが、団体はどう考えているのか。また、担当課からどのように伝えていたのか。

→（青少年育成課） 団体の関係者を交えて説明をしている。受益者負担についても議論になったが、子どもから料金を徴収することに抵抗があるようで、参加費は徴収してい

ない。

(委員) 補助金は3年で終わるが、団体は活動を継続していく意思があり、事業拡大も視野に入れていると報告にあったが、経済的な部分について、担当課は団体と協議しているか。

→(青少年育成課) 補助金が終了するので、受益者負担を含めた考え方を整理する必要があるという共通認識のもと、協議を重ねてきた。団体としては、寄附等でやっていければとの意向を持っているようだ。

(事務局) 諸事情により、評価は次回実施させていただきたい。詳細の資料を準備し、再度報告させていただきたい。

(委員) 平成29年度の事業の状況も併せて確認願う。

(委員長) 事務局提案のとおり、評価については次回に持ち越すことにする。

②事業名：古賀あつたかハウスきびの里プロジェクト

実施団体名：古賀市さとうきび研究会

補助実績額：410,000円（補助申請額：410,000円）

<質疑応答>

(委員) 委託料の算出方法が変更されている理由はなぜか。

→(福祉課) 変更理由は把握していない。

→(委員) 障害者雇用が、事業の下請けのような形態になっているのを危惧していたため、詳細を確認願う。

→(事務局) 厚生労働省が公表している、障害者福祉施設に対して実施した調査によると、1時間当たり平均193円という結果もあり、今回設定されている単価は不当に安いものでないと認識している。

(委員) 作付面積が拡大しているにも関わらず、収穫量が増加していないのは、土地の環境が原因なのか、専門家に確認する等原因分析を実施しているか。

→(福祉課) アドバイザーに確認している。

(委員) 収穫量に関して、収穫計画と収穫実績を把握しているか。

→(福祉課) 把握していない。

(委員) 委託料の495時間について、何人でどういう体制で作業に従事したのか内訳は把握しているか。

→(福祉課) 6月から10月の期間に、利用者4人、指導者3人の体制で、一日当たり3時間、10日間作業し、210時間。11月から翌年3月にかけては、利用者3人、指導者2人の体制で、一日当たり3時間、19日間作業し、285時間。併せて495時間として計上している。

(委員) 作付面積が3倍になった理由は確認しているか。

→(福祉課) 計画していた範囲では、作付けがうまくいかなかったため、作付面積を拡

大することで対応したことによるもの。

(委員) 計画では協賛金を計上しているが、未収入になっている要因は。

→ (福祉課) 把握していない。

#### <委員のコメント>

(委員) 作付けがうまくいかなかった原因を解消するのにどれだけの時間がかかるのか疑問。計画と実績がないため分からないが、事業が計画的に実施されていないのはいか。申請時は障害者雇用に関する記述がほとんどなく、事業展開が想像できなかったが、報告時にも改善が見られない。

(委員) 事業全体を通して、計画性が見られない。補助金をもらい、事業をただ実施しただけ、改善や工夫が見受けられない。

(委員) 申請時も実績もそうだが、サトウキビを作ることに注力して、障害者の就労に関することや、小中学生向けの体験等がどのように事業に結びつくかが見えない。事業の目的を達成するために、どう展開していくかを、場当たりのではなく、計画的に事業を実施すべき。

(委員) サトウキビを作ることが目的になって、障害者の就労は後から取ってつけたと言われてもしょうがない内容になっている。ただ作業に従事する下請けのようにも捉えられるため、意見を付していたように、計画段階からの共働体制等を計画的に実施する必要があったように感じる。

③事業名：古賀市における園芸福祉事業

実施団体名：古賀市緑のまちづくりの会

補助実績額：180,000円（補助申請額：180,000円）

#### <質疑応答>

(委員) 団体が組織として先細りしていくという課題は、団体自身も担当課も共通認識されているようだが、公募型補助金が終わり、今後、どのように取り組まれるのか。

→ (介護支援課) 団体では高齢化が進んでおり、現在の活動内容を維持していくことが精一杯ということもあり、今後の活動を検討するまでに至っていないが、平成29年度は福岡県社会福祉協議会の補助金を検討している。行政の依頼も多々引き受けながら、自らの事業に取り組んでいる実態があり、許容範囲を超過した活動になっていると感じる。

(委員) 行政を含む色々な団体から呼ばれて活動している事業については、作業費や謝礼という形で報酬は受け取ることはできないのか。

→ (介護支援課) 相手方は行政の関係機関が多く、そのための費用が予算化されていないため、謝礼を受けるのが難しいのが現状である。

→ (事務局) まちづくりのイベント等でボランティアに謝礼を支払っている例はある。必要に応じ報償費を支払うことは可能と考える。

(委員) 団体として一番大きな課題は後継者の育成だが、公共施設の美化が目的である事業ならば、市も費用負担の在り方について検討する必要がある。

(委員) 現在の収支と事業展開では、団体の後継者を見出すのは困難である。現在の団体運営の在り方が、新たな人材確保を阻害している可能性がある。団体の存続に関して、担当課としてどういう認識を持っているのか。

→(介護支援課) 存続してほしいと思っている。担当課としても、問題意識の共有はできており、活動内容を縮小するなどの見直しを図りながら、今後も関係を続けていきたいと考えている。

#### <委員のコメント>

(委員) 助成金などにより活動資金を調達することは重要だが、組織を持続可能なものにしていくことの方が重要である。現在事業を実施できているのは、現在の構成員に限ることであり、新たな人が入らず、将来的に衰退していくことが想定されるのであれば、活動を見直すべきである。組織づくりのため、市民活動支援センターと連携していくことも重要と考える。

(委員) 担当課として団体の必要性を感じるのであれば、団体だけの問題ではなく、行政全体の問題として連携して考えていく必要がある。

(委員) 有益な活動だとしても、実費負担をしてまでボランティアに参加する人は少ないように感じる。補助金を受けた3年間で何も対策を講じてきていないのが残念に思う。完全にボランティアの形態で事業を継続するのであれば、行政の支援無しには継続できないと考える。また、行政を含め相手方から実費負担をしてもらう仕組みを担当課と協議していくことが重要である。

(委員) 担当課を含む行政の方は、補助金等で団体を支援する安易な発想ではなく、どのようにすれば、行政と団体が共働で緑のまちづくりを持続可能にしていけるかを考えていくことが重要。

(委員) 昨年度、委員会でも費用負担の在り方について、意見を付していたにも関わらず、取組に変化が見えないのは残念。今後は、担当課を交え、事業の見直しを図ることが必要。

④事業名：古賀市商工会クリスマス市民祭 実施団体名：古賀市商工会 補助実績額：457,000円（補助申請額：455,000円）
---

#### <質疑応答>

(委員) 3年間事業を実施してきて、団体はどのように感じているのか。

→(商工政策課) 商店街の賑わいが無くなってきている現状を何とか変えようと、実行委員会が中心となって、やりがいをもって取り組んでいたように感じる。また、担当課

としても、関係機関調整から事業実施まで、実行委員会を中心に一丸となって活動されていたことには、一定の評価をしている。

(委員) 団体の自己評価について、担当課は意見を聞いているか。

→(商工政策課) アンケート結果には表れていないが、その他の店舗の方から、新規の来客が増えたという感想を聞いた。

(委員) 補助金終了後の事業展開を担当課は聞いているか。

→(商工政策課) 現段階では未定と聞いている。継続したい意向があることは聞いているが、収支のバランスを考慮して、事業規模の見直しを含め検討するとのこと。

#### <委員のコメント>

(委員) 補助金が無くなってから事業の見直すのではなく、本来であれば補助期間中に検討する必要があった。商店街の活性化は商工会だけの問題ではないため、市も含め検討していくことが重要と考える。

(委員) 実行委員会だけで事業への賛同者を獲得していくことは困難と思われるため、事業の見直しを図る必要がある。

(委員) 前年度の報告書と比較すると、書類作成の精度は高くなっているように感じた。今回補助事業に採択された取組の中で出てきた課題等を検討することで、公募型補助金の経験を無駄にせず、今後事業をよりよいものにしてもらいたい。

(委員) 前年度の反省を踏まえ、アンケートの実施や協賛金の獲得等改善が見られた。事業者アンケートの結果からは、まだ満足度の高い事業者も多数あるため、引き続き改善に努め、よりよい事業にしてもらいたい。

⑤事業名：古賀市商工会駅前商店街土曜夜市 実施団体名：古賀市商工会 補助実績額：245,000円（補助申請額：447,000円）
--

#### <質疑応答>

(委員) 担当課の総括にある突発的なトラブル対応とは、具体的には何か。

→(商工政策課) 迷子のトラブルと出店者の電気系統のトラブルがあり、そこに実行委員会の人員が割かれ、アンケート配布ができなかったと聞いている。

(委員) 商店街からの協力が得られなかったとあるが、担当課として、どういうふうに聞いているか。

→(商工政策課) 実行委員会は、駅前商店街の事業主がメンバーになっているが、商店街の中でもイベントに賛同される方とされない方があり、賛同される方の中にも、実行委員会として、実働部隊としてはやりたくないと思われる方もいたようだ。結果として、動ける方、賛同する方が集まったときに実行委員会の人員としては少ない人数であった。

(委員) アンケートに関して、委員会からの指摘のとおり、今回示された点はよかった

と思う。ただし、商店街アンケートの有効回答が3、4件であるのは、突発的なトラブルが関係しているのか。アンケート結果を見るとそれなりにやってよかったと見受けられるが、そもそも対象件数が少ないのではないか。

→(商工政策課) アンケートについては、一部記載がなくてわかりづらいが、出店者向けのアンケートである。商店街内からの出店者のアンケートの配布対象は10程度、商店街外から出店者のアンケートは15程度で、結果的に少ない数になっているが、これが精いっぱいだったと聞いている。

(委員) 先ほどのクリスマスイルミネーションも商工会の取組だが、申請時点ではプレゼンテーションをする人も違うこともあって、それぞれメンバーが違うと認識しているが、今でもそれぞれ別のメンバーが動いているのか、あるいは重複しているメンバーもいるのか。

→(商工政策課) 基本的には、実行委員会としては別である。ただ、一部、重複しているメンバーはいるが、別々のイベントとして企画運営されている。

#### <委員のコメント>

(委員) 経費を抑える工夫が見られる、もう少し改善を加えたら自立して事業を実施できる状況になると思う。また、商店街活性化を目的にするのであれば、少ない実行委員会の構成員だけで活動するのは限界があるので、コミュニティづくりの一環と位置づけて、地域のまつりとして事業を実施してもいいと思う。結果的に協力も得やすくなり、モチベーションの向上や集客にも効果が見込まれると思われる。

(委員) 市の補助金が終了しても、経費削減を意識し事業の継続に期待したい。

(委員) 改善が見受けられ、事業としての成長が見られる。今後アンケートの回収数を増やすことで、見えない課題や改善策も多く集まることが想定されるため、事業の継続に期待したい。

(委員) アンケートの回収ができなかったのは残念だが、来場者数も増加傾向にあるため、事業継続に向けて引き続き改善を図っていただきたい。

(委員) 商店街の活性化に向けて、出店料の徴収による収入確保、経費の削減等の成果が見られた。自立に向けては様々な課題があると思うので、担当課を含め、アイデアを出していくといいのではないかと思う。

⑥事業名：ボランティアによる飼い主のいない猫の捕獲避妊去勢手術・啓発運動 実施団体名：わんにゃんフレンズ古賀 補助実績額：500,000円(補助申請額：500,000円)
---

#### <質疑応答>

(委員) 今年度からは議会の請願を通じて、地域猫活動補助金制度として補助金を出しているが、どのような仕組みなのか。

→（環境課） 飼い主のいない猫の問題を地域の環境課題として、地域で解決することを目的として、これまで活動してきたわんにゃんフレンズ古賀ではなく、地域で 2 名以上の団体登録を行った団体に対し、手術費を補助する制度である。

（委員） 補助の金額はどのぐらいで、現段階でどの程度の団体が申請しているのか。

→（環境課） 補助金の金額は、1 頭当たりメスが 1 万円、オスが 5 千円を上限としており、手術費との比較で安価なほうの金額を補助するもの。平成 29 年度が始まって間もないこともあり、ホームページ等で周知はしているものの、現段階では団体の登録はない。ただ、ボランティアに直接相談があっている地域には、環境課も現地確認等を行い、制度の活用を勧めているところである。

（委員） この事業の経緯として、補助金を使って団体の活動が広がり、仕組みづくりにもつながって、担当課としてはモデル的な事業になったのではないかと思うが、新たな地域猫活動補助金制度はわんにゃんフレンズ古賀は補助対象団体になっていない。公募型補助金が終了した現在、団体と環境課の関係はどうなったのか。また、今後の活動に対して、団体はどういう意向を持っているのか。

→（環境課） 請願を受けてこの制度を創設するに当たっても、使いづらいつい制度になっていないかなどを協議し、古賀市全体に活動が広がるように協力してきた。団体自体は、イヌとネコを対象に活動を行っているが、ネコの活動に偏りが出てきている。わんにゃんフレンズ古賀とは別に地域猫活動を広める団体もあり、今年度以降はその団体に任せて、自らは、古賀市全体に地域猫活動を広めるためのサポートをしていきたいという意向があるようだ。地域猫活動の仕組みがわからない団体に対し、環境課と一緒にアドバイスをさせてもらいながら活動を進めていこうと考えている。

（委員） 団体の財政的な部分は、資料として確認していないが、負債を抱えているとか、借入れがあつて現金が回っていないなどの話はないか。

→（環境課） 特に相談等はない。今回の補助金では、前年度より増額してでも、今のうちに懸念される地域を一気に手術してしまおうという思いもあつて、かなり手術の頭数が増えている部分もあると思う。寄附金を集める努力もされている印象を受ける。

（委員） この事業は手術だけではなく、啓発にも力を入れていると思うが、具体的にどのような啓発活動をしていて、どのような効果があつたのか。

→（環境課） 単に活動をするだけでは、周りの方に活動の内容が伝わらないので、手術をするまでの一連の流れとか、手術をしたら猫が増えないというチラシを地域に配布するなどした結果、ネコを不妊去勢手術することが少しずつ地域にも知られることとなり、環境課への相談も増えてきている。

（委員） この活動を通して、地域猫活動に関して環境課の負担が大きくなっているというふうに見えるところもあるが、担当課としてはどういう認識か。

→（環境課） 従来の飼い主のいない猫の問題については、環境課への持ち込みが主な対応であった。今では、持ち込み以外の提案がいろいろできるようになったことがこの事



業の成果であると思っている。

<委員のコメント>

(委員) 担当課、委員会とも高い評価の事業である。今後は、事業の成果をいかに地域へ波及させていくが課題になると思われる。補助金という制度を使いながら、行政と共働で仕組みをつくるという、共働のまちづくりという視点で、いい取組になったが、それを広めていくためのツールや、いろいろな人に伝える方法が、まだ整っていない状況である。行政と市民団体が共働するいいモデル事業になったと思うし、この事業をモデルとして行政内部にも共働事業が広がることを願う。

(委員) 収入実績も増えており、とても評価できる事業と思う。今後は、地域猫活動を軸として、積極的な啓発活動の取り組みにも期待したい。

(委員) 事業当初は、経費のバランスが悪く、会員の手出しも生じていたが、行政との共働により課題を解決し、避妊去勢手術という手法だけでなく、本来のノウハウを活動に活かすことに成功している。自立というと、利益を出して収支のバランスをとることだと思われがちだが、収入を得るばかりでなく、別の形の自立という方向を示した事業になったと思う。

(委員) とても意義のある事業に成熟したと思う。この取組の意義について、古賀市内での市民や行政はもちろんのこと、全国の自治体にもPRをしていただきたい。今後は、近隣自治体との連携を図るなど、事業の発展に期待したい。

(事務局) 事例を周知する場として、5月に実施済の補助金報告会が考えられるが、参加者の人数が少なかったこともあり、課題が残るものになった。この事業に限らず、公募型補助金を活用した事業は、団体に事例報告してもらうことをルールとしていることから、事務局としては、報告会の内容を充実させて、より多くの団体に補助金を活用してもらえるよう改善を図っていきたい。

⑦事業名：るんるん♪ごみ拾い

実施団体名：特定非営利活動法人エコけん

補助実績額：44,000円（補助申請額：40,000円）

<質疑応答>

(委員) 収支報告書の消耗品費が具体的にわからないが、トングや缶バッジメーカーなど今後も使えるようなものが占めているのか。

→(環境課) 消耗品の内訳としては、主に、缶バッジの素材セットが1万円ほどを占めている。トングは今回新たに大人用を2本購入している。残りは鉛筆やごみ袋等である。

(委員) この事業に参加した方は、どのぐらいの時間ごみ拾いされるのか。何分間か決まっているのか、あるいは本人に任せてあるのか。

→(環境課) 本人に任せていると思う。時間は決まっていないが、会場を1周するよう

案内していたと思う。小さな子どもと保護者の参加が多いようなので、子どものペースに合わせて30分ぐらいはかかるのではないかと思う。

<委員のコメント>

(委員) 団体への期待が高かったこともあるかと思うが、NPO法人として補助金を活用し実施するのであれば、事業の発展等工夫する余地があったと思われる。普及啓発だけをやって3年終わるのは残念に思える。

(委員) ボランティア活動への入口としては評価できる。イベントとしてはいいが、3年間同じことをやっただけの印象を受ける。今後は、事業の発展を視野に入れて事業の見直しを図ってもらいたい。

(委員) 団体として、スタッフ、資金、ノウハウもあるのだから、ただごみを拾って終わりというのは、物足りなさを感じる。拾ったごみの内訳を整理するなどの工夫もほしかった。また、仕組みやサービスをパッケージ化して、色々なイベントの実行委員会に対して提案したり、ノウハウをサポートしていったりすることが、取組の普及啓発をさらに広げていくことにつながるのではないか。

【その他】

(委員長) 今後のスケジュール等を確認して終了する。事務局より説明願う。

(事務局) 本日の審査結果は事務局にて集計し、次回の委員会の冒頭で報告させていただきたい。次回の委員会では、本日の保留1件を含む9事業を審議していただく予定にしているが、6月23日は予備日として認識願う。また、9月から11月にかけて市の個別補助金についても審議いただく予定にしており、スケジュール等の詳細は追って連絡させていただく。

(委員長) 以上をもって、平成29年度第1回補助金審査委員会を終了する。

以上